

# 新型コロナウイルスが、介護現場にもたらしたもの ～今後の課題と対策を考える～

とき：2022 年 3 月 19 日（土）13:30～16:00      ところ：ドーンセンター 4F 大会議室①

講 師：小芝 礼さん（医療法人呉診療所ケアプランセンター・ケアマネジャー）  
 現場報告：岡崎和佳子さん（有限会社菜の花 代表取締役、ケアマネジャー）  
 長福 洋子さん（NPO 法人エフ・イー 理事、コーディネーター）

新型コロナウイルス感染拡大のなかで、大変厳しい経験をされた小芝礼さん、遠距離の両親と、同居している義母の介護に働きながら奮闘された岡崎和佳子さん。そして、地域で高齢者の居場所づくりに尽力されている長福洋子さん。お三方それぞれの立場から経験したことや教訓をお話していただきました。



小芝 礼さん

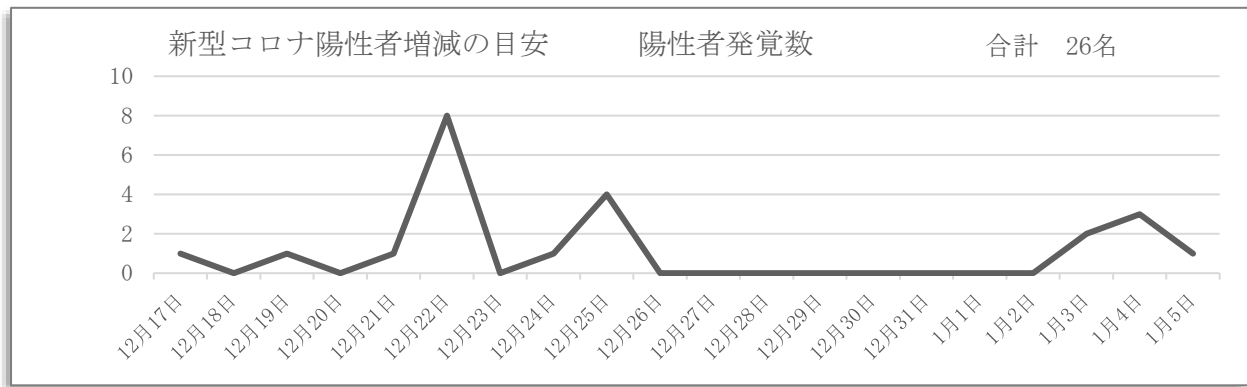
### ◆陽性者が出て、大変！

令和元年 1 月 15 日、日本で初めて新型コロナの感染が確認されました。私の働く施設・事業所では、令和元年 12 月にコロナ陽性者を確認。

デイサービス A (35 名定員)、デイサービス B (38 名定員)、住宅型有料老人ホーム C (40 床) 住宅型有料老人ホーム D (30 床)、住宅型有料老人ホーム E (96 床)、居宅介

護支援事業所 F (ケアマネ 8 名)。これだけの施設・事業所で合計 26 名の陽性者が出ました。一つだけ大きい住宅型有料老人ホーム E (96 床) は、やはり利用者さんの数が多いので、コロナ感染者が出た時の対策は非常に大変な状況になります。陽性者が出たことによって、例えば、一人出た場合、その一人はどういう経路、どういう所に過ごしておられたのか、全部洗い出さなければなりません。

以下は実際の発生状況のグラフです。



12 月 17 日に関連事業所のデイサービス利用中の方が一人発症を確認され、次の日に一緒に食事を楽しまれた方たちがどんどん発熱。食事の時マスクを着けないので、リスクが高いです。そのためパーティションを付けたのですが、すべてを防ぐのは難しい。感染がどんどん広がっていきました。

デイサービスの営業中止、施設での PPE (後述) 対応、訪問サービスの短縮、住宅型有料老人ホームの利用者がデイサービスを利用し、濃厚接触者になると、有料老人ホームに戻れない、施設に行く時間を短縮せざるを得ないわけで

す。いろいろ対策していたにも拘わらず、22 日は一日で 8 名の陽性者が出ました。一ヶ所で 5 名以上感染者が出たらクラスターと認定されてしまいます。利用者さん、職員含め計 26 名の陽性者が出た結果になりました。

陽性が確認された後、往診の先生と相談して入院先を探すのですが、なかなか受け入れ先がない。当時コロナ対応の病棟は十三市民病院にしかなく、これだけの人数を抱え全員同じところには行けない。一番遠距離の病院は、りんくう総合医療センターでした。

## ◆クラスター認定されるとどうなるか？

デイサービスAの全利用者、住宅型有料C～Eの全入居者、関連事業所と出入り業者の全員にPCR検査を実施するよう指示があり、訪問系サービスの提供時間の短縮、入浴介助の中止、食堂での食事でも中止し居室で行うことにしました。



原則、抗原検査陽性だけでは入院要請できない。PCR検査の結果を待つ必要があるが、クラスターと認定された事業所や施設では抗原検査の結果だけで入院要請できます。大阪府のHPにクラスター事例として掲載されます。

## ◆コロナに関する基準について

潜伏期間は1～14日（平均5.6日）、発症2日前から感染力があり、ウイルスの排出のピークは発症日です。

## ◆濃厚接触者について

1メートル以内の距離でお互いマスクをせずに食事やおしゃべりを15分以上行った方

## ◆2022年3月の現状

医療がひっ迫しています。コロナウイルス変異株（オミクロン株で15番目）が次々と確認され、感染力が高いため罹患者が激増。病院ではベッドの数が足りず、コロナウイルス感染者以外の入院受け入れが困難な状態になっていました。

## ◆利用者の思いと家族の思い

マスクの値段が高くて買えなかった。  
マスクをつけたくない。  
同居している家族は、デイサービス、ショートステイなど受け入れが難しくなる。  
同居していない家族は、本人に会うことが難しくなる。施設に入っていたら、本人との直接の連絡手段がない。

## ◆コロナ再発防止に向け工夫していること

①身を守る：自分を守らないと自身の行動が

制限されます。②健康管理：検温の徹底

③環境整備：所々にパーテーションを設置  
消毒の徹底 不織布（ダスター）の準備 消毒アルコール設置 ④ICT機器の導入：ZOOMやLINEの活用。家族さんとはLINEで連絡が取りやすいです。

## ◆当時感じたことのまとめ

人員が限られているため仕事は休めません。またマスク、うがい薬が高騰。一人一箱しか買えない時でしたが、量販店などに走って手袋やマスクを買い集めました。現在マスクの価格は落ち着いてきましたが、手袋は高騰しています。私たちが今できることは・感染予防・感染拡大防止・行動制限です。

※PPE (personal protective equipment) の略（個人用防護具）ガウン、エプロン、その他保護衣、手袋、マスク、ゴーグル、フェイスシールド、キャップ、シューカバー等



## 現場からの報告 ①・・・岡崎 和佳子さん



## ◆「重篤な症状」でなければ入院できない！？

重介護が必要な人は、介護者が不在になると、生活できない、生きていけない事を意味します。

「重篤な症状」はバイタルサインや酸素濃度だけでは測れません。「重篤な生活実態」は更に「重篤な症状」を発生するリスクがあるのではないかと。

Aさんは「森永ヒ素ミルク」の被害者で、首から下まで全麻痺でお一人暮らし。介護保険や障がい福祉サービスを利用して生活していたのですが、ある日、発熱、咳が出て、菜の花診療所でのPCR検査は陽性。酸素濃度が96%あり、保健所から重篤の症状ではないから入院できないと判断され、自宅療養となったのですが、一方でヘルパーさんも感染していく訳です。

一晩最大13時間位一人で過ごし、オムツが濡れたまま過ごさなければいけない。水を飲みたいくても飲めない状態が続いたのです。発症から7日目に緊急入院されたが、一番しんどい時は自宅でした。

入院3日後に「退院基準をクリアしたので退院」と搬送先の病院から連絡があり、家に帰る選択をしましたが、今度は帰るための態勢が取れない。その一週間は、ほぼ夜中までずっと、ヘルパーさんの家族や施設などとの連絡や対

応に追われ大変でした。同時に職員も濃厚接触者になって、毎日コロナ・コロナで日が暮れる感じです。いつ、どこで、感染するかわからない！また家族感染が多発！介護職の人手不足！介護職から、利用者への感染は絶対避けなければならない。

#### ◆コロナ感染拡大の怖さ

朝平熱、昼微熱、夕方高熱、酸素濃度 60%を切って急激な低下と、急変が発生する場合があります。救急車で搬送先が見つからない状態が今でも続いています。病院でのコロナ対応で一般手術が一年ぐらい延期されています。

また、家族と会えない、仲間と会えない、会話ができない、愚痴を聞いてもらえない等々、人と人の関係が遮断されてストレスが増加し

ています。デイサービスやショートステイを利用しながら家族の手助けで何とか自宅で過ごしていた状態が崩れ、家族の負担が急増しました。

#### ◆ウイズコロナに向けて

重介護が必要な方がコロナに感染した時の引き受け先の確保。施設や訪問介護サービスが利用できない時の代替サービスはOKになっていますが、ケアプランの作り直しや、主治医に意見書を求めたり、担当者会議もしないといけないので、緊急プランを作成できるよう、もっと事務の簡略化をして欲しいと思います。

また、一時的なサービス提供事業所の評価をもっと高くしないといけないと思います。



### 現場からの報告 ②・・・長福 洋子さん



#### ◆NPO 法人エフ・エー

#### 「はなまる介護サービス」の状況

デイサービスでクラスターが発生し、週2回デイサービスを利用されていた方がコロナに罹ったかもしれない。不明のままですが、在宅サービスを提供しなければならない。90歳を超えた利用者さんは夜中から熱が出て、コロナを疑いPCR検査。常勤のヘルパーさんは一日何件も受け持ってもらっているので、本来ならお昼まで3~4件入る所ですが、結果が出るまで事務所に待機。朝一番のサービスが遅れたため、全部が影響を受けます。結局コロナになってもならなくても、事業所は大変です。

また高齢のヘルパーが多く、ご家族も高齢で基礎疾患を持っているので、仕事を辞めてくれと言われる方もいますし、休んでいる方もいます。もともと少ない人員なのにコロナが始まって、ヘルパーさんの数が少なくなりました。ヘルパーさん側から見ると、利用者さんが感染者になり、自身もコロナに感染してしまったら、労災対象になるが、濃厚接触者になって仕事を休んでも、どこからも何も一切手当が出ません。一番大変なことをやらされているのに、何も報われないと今回感じたところです。

地域の居場所、サロンの現状…すでに2020年3月から2年間の休止。ほぼ介護予防、要支援の方が来られることが多く、年間7000人、

毎日20人位が利用しています。コロナになってから一切閉まってしまいました。土地柄か商店街の方が風評被害を気にされて、近隣から何を言われているのか分からないことを直に言われました。

サロンで昼ご飯を手作りして出し、喋りながら皆で食べていたのですが、それができなくなりました。たまに道ですれ違った時に、一週間誰とも喋ってなかった、久しぶりに喋ったと聞きました。この2年間高齢者の居場所が奪われ、人と人のつながりが消えてしまったと思いました。これからどうやってつながって行こうかという辺りですが、やっと4月から感染対策をしっかりと、人数も限定して、平日の午後の2時間に限ってサロンを開く予定です。



現場からの報告を熱心に聴く参加者

講演会を通して、新型コロナウイルス感染症に振り回された私たちの命や生活を守ってくれたのは、エッセンシャルワーカーの努力と犠牲によるものであることを実感しました。今日のお話が、参加した人それぞれの今後の活動に活かせることを願っています。(相 桂花)